

# 生涯学習の推進を図るための参加型学習の方法論（6）

清 國 祐 二

はじめに  
子どもの発達段階に応じたグループワーク教材  
まとめ

## はじめに

本稿は、参加型学習の方法論に関する一連の研究及び実践の報告である。今回は、第三報の家庭教育支援のためのワークショップの教材開発の続報となる。子育て支援策が厚生労働政策であるのに対し、家庭教育支援は教育政策である。前者は保護者の子育ての負担を社会で肩代わりすることで、子どもを産み育て易い環境を整え、人口減少にも歯止めをかけようとするものである。そのために、医療費や教育費の無償化や、待機児童の解消や延長保育等の充実に向けた取組が行われている。後者は家庭における子育ての質を高め、子どもの育ちが豊かになるよう、保護者の教育力を高めようとするものである。多様化・個別化する生活スタイルの中で子育てに不安を抱える保護者は少なくないため、ひとつの方法として親同士の学び合いを通じた家庭教育の質を高める取組がある。後者の分野において開発した教材を本稿ではまとめて示したい。

## 子どもの発達段階に応じたワークショップ教材

家庭教育を一律に論じることは困難である。それは子どもひとりひとりの個性性と、保護者の通過してきた家庭環境や自分の育ちの相違からくる。その多様性は親の数だけ存在すると考えられ、さらに子どもの数を掛けた数であるとも考えられる。しかしながら、全ての保護者が何らかの悩みを抱えながら子育てをしているという点において共通性は認められる。家庭教育支援のためのワークショップが意味を持つのはその一点においてであろう。保護者の悩みには保護者自身が置かれている境遇に端を発するものと、子どもの発達上の課題に端を発するものと大きくふたつに分類できる。前者についてはワークショップで俎上に上げるには少し重すぎるため、自ずと後者の内容について教材化が図られることとなる。

本稿と第三報との相違は、年齢や学年、発達段階に配慮して、学齢に応じた教材への落とし込みである。学齢を超えて共通する課題や内容もあるが、その学齢期に特有のものの方が話し合いが噛み合いやすい。この教材の作成に際しては、香川県教育委員会と本学とが共催者として養成している家庭教育推進専門員（「親同士の学びを取り入れたワークショップ」のファシリテーター）への聞き取りや、子育てに関する調査報告などを参考にした。一方で、多様な保護者の参加を想定しなければならないこともあり、内容については最大公約的なものとなるよう心がけた。

以下、作成した教材を指導案とワークシートの順に列挙する。

対象：幼児～中学生の保護者

テーマ：子どもとの接し方 ～さて、あなたなら？～

ねらい

子育ては日常の営みなので、忙しさにかまけて大事なことを見過ごしてしまいがちです。発達に合った子育ての場面を想定し、親のあり方を一緒に考えていきます。

時間	主な活動	留意点
2	【はじめに】 子育てに「困った状況」はつきもの。日常はゆとりがなくて、つい安易に対応してしまいます。そこで、少し余裕をもって考えてみましょう。すでに経験された方がいらしゃれば経験談も共有できるといいですね。答えのない世界で、いろいろな子育てのあり方を想像してみましょう。	
8	【アイスブレイク（例）】 ① 4人グループ（G）に分かれてもらう。 ② 新聞紙を1枚ずつ配る。2枚に破り隣のGと交換。4枚に破り隣のGと交換し、パズルの要領で再現。8枚に破り隣のGと交換、そして再現。最後16枚に破りシャッフルしたところで、自分のGで再現するように指示。	① なるべく新しい組合せで。 ② 隣に渡すときにシャッフルして競争意識を煽りましょう。最後の「落ち」を十分意識しましょう。
10	【アクティビティ】 ① ワークシートを配布して、経験の振り返りや望ましい対応について3場面を記述してもらおう。 ② グループ内で記述内容を1場面ずつ順番に発表してもらおう。1場面ごとに意見交換してもらい、最も共感できる対応を選んでもらう。 ③ 話し合いの内容と全体で紹介したい対応について要点を全体に発表する。	① シートを読み上げて、それぞれの経験や望ましい対応を書き出します。 ② 日常の振り返りや意見交流が大切です。上手に対応している親もいるはず。参考にしましょう。 ③ せつかくの成果を全体に伝えましょう。
8	【ふりかえり】 ① 今日のワークショップで感じたこと、気づいたことをグループ内で発表し、共有する。	① 素直な自分の気持ちを表現してもらいましょう。
2	【まとめ】	今日は、保護者のみなさんにこれから遭遇するかも知れない場面で、子どもとどう接するかについて思いを馳せていただきました。実際の場では、感情の方が先に立つかも知れませんが、こうしてあらかじめ考えておくことで多少なりとも冷静な接し方につながるかも知れません。子どもとのよりよい関わりを意識するようにしましょう。

ワークシート（幼児編）

子どもとの接し方 ～さて、あなたなら？～

<p>&lt;買い物編&gt; 最近、子どもと買い物に行くと、私と一緒に回るのが退屈なのか、すぐに店内を走り回るようになります。周囲の人に迷惑がかかることも気に掛かりますし、日中はお年寄りも多く、ケガをさせてもいけません。レジのあたりにそのやんちゃな子どもと一緒にいると、周りの目が刺さるように感じることもあります。走り回るのがやめさせるために、どのように子どもに言い聞かせたらいいのでしょうか。</p>	<p>① (私の経験はこうでした。／私ならこうするかな。)</p>
<p>&lt;手伝い編&gt; 子どもがおうちでお手伝いをしたいと言うようになりました。親としてやって欲しいことにはあまり興味を示さないのですが、子どもにはちょっと難しいお菓子作りやパン作りを手伝いたがって困ります。子どもが失敗してもいいように、少しだけ渡すのですが、本物がいいと言ってだだをこねます。仕方ないとも思うのですが、聞き分けよくさせるために何かいい方法がないのでしょうか。</p>	<p>② (私の経験はこうでした。／私ならこうするかな。)</p>
<p>&lt;友達編&gt; 子どもが幼稚園から帰ってくると、「〇〇ちゃんと遊びたいなあ。」と寂しそうに言います。「幼稚園でお約束したらいいんじゃないの。」と子どもには言うのですが、恥ずかしいのか言えないようです。ここで親がしゃしゃり出してしまうと、ずっと親を頼る子どもになってしまうのではないかと心配です。ものおじせず、自己主張できる子どもに育てて欲しいのですが、どのようにしたらいいのでしょうか。</p>	<p>③ (私の経験はこうでした。／私ならこうするかな。)</p>

ワークシート(小学校下学年編)

### 子どもとの接し方 ～さて、あなたなら？～

<p>&lt;友だち関係編&gt; 学校にはさまざまな児童がいます。優しい子ども、粗暴な子ども、おとなしい子ども、活発な子ども、運動のできる子ども、勉強のできる子ども、身体大きい子ども、などなど。そのような多様な児童がいるクラスで、あなたの子どもが「からかい」にあっているようです。さて、あなたは子どもにどのように語りかけますか。また、行動するようにながしますか？学校への連絡についても考えてみましょう。</p>	<p>(私の経験はこうでした。／私ならこうするかな。)</p> <p>①</p>
<p>&lt;基本的な生活習慣編&gt; 子どもが忘れ物をするようになってきました。翌日の準備をしてから寝るように言うのですが、毎日の習慣になるにはほど遠い状況です。かといって、早起きして丁寧に準備するわけではありません。これから授業時間も増えて、宿題も増えてきます。大丈夫だろうかとか心配になります。親が連絡帳を見て、翌日の準備をした方がいいのでしょうか。他の保護者には聞かずに聞かせません。</p>	<p>(私の経験はこうでした。／私ならこうするかな。)</p> <p>②</p>
<p>&lt;食事編&gt; 子どもの間食や偏食について困っています。小学校から帰ってくるとすぐにおやつを欲しがります。スナック菓子を与えていたのですが、丸々一袋食べてしまうようになりました。その分、夕食が細くなり、寝る前にお腹が減ってしまい、菓子パンを食べてしまいます。その循環を断ち切りたいと思うのですが、子どもの要求についてあげてしまいます。食事のリズムを作るために、どのような取組が有効でしょうか。</p>	<p>(私の経験はこうでした。／私ならこうするかな。)</p> <p>③</p>

ワークシート(小学校上学年編)

### 子どもとの接し方 ～さて、あなたなら？～

<p>&lt;スポ少編&gt; 運動のできる子どもは自尊感情が高い、自分に自信が持てる、と聞いたことがあります。そこで、スポーツ少年団に入れようと思いましたが、子どもはあまりやりたがりません。子どもの意思を尊重した方がいいと思う反面、親子共々後で後悔するのではないかという思いもあります。今、とても揺れています。どのようにするのが、子どもの未来にとって望ましいのでしょうか。</p>	<p>(私の経験はこうでした。／私ならこうするかな。)</p> <p>①</p>
<p>&lt;友だち編&gt; 子どもが家で学校のことをあまり話そうとしません。友だちの話もほとんどでないですし、仲の良い友だちがいるのか心配です。先生によると、学校では大人しく、休み時間は図書室で借りた本をひとりで読んでいることも多いそうです。ただ、友だち関係でトラブルではなく、心配することはないということです。これからの学校生活を考えると、親としては心配です。子どもとどんな話をしたらいいのでしょうか。</p>	<p>(私の経験はこうでした。／私ならこうするかな。)</p> <p>②</p>
<p>&lt;学習塾編&gt; 小学校上学年ともなると、周囲の子どもの多くは学習塾に通っているようです。今のところ、学校の勉強にもついていけているので、大きく必要性を感じているわけではありません。しかし、高校受験や大学受験のことを考えると、学年レベルよりも上の勉強をさせた方がよいのではないかと考えるようにもなりました。子どもの可能性を最大限に広げるために、親としてどのようにすればよいのでしょうか。</p>	<p>(私の経験はこうでした。／私ならこうするかな。)</p> <p>③</p>

ワークシート(中学生編)

子どもとの接し方 ～さて、あなたなら？～

<p>&lt;ゲーム・スマホ編&gt; 中学生になり、だんだん周りの子どもの影響を受けるようになってきました。部活動や学習塾で遅くなる子どももいるため、いきなりスマートフォンを持ち始める子どももいるようです。わが子にはまだ持たせたくないのですが、たまに「〇〇ちゃんも〇〇くんもスマホ持っているみたい。」と言うようになりました。みんなが持つようになれば、買わない理由が見つからなくなりそうです。親としてどうしたらいいでしょうか。</p>	<p>(私の経験はこうでした。／私ならこうするかな。)</p>
<p>&lt;勉強編&gt; 入学後はじめての中間試験が終わりました。最初ということもあり、子どもなりに準備をして試験に臨んだようですが、結果は自分の考えていたものよりよくなかったようです。小学生までとは違うと感じたようで、少し自信を失いかけているようです。これが競争社会の出発点なので、ここでの親の一言は大きい気がします。さて、親としてどのように子どもと向き合えばよいでしょうか。</p>	<p>(私の経験はこうでした。／私ならこうするかな。)</p>
<p>&lt;部活動編&gt; 中学生になると、勉強以外の経験も豊かになるので部活動に入ることを勧められました。最初は新しい環境で楽しそうに過ごしていたわが子ですが、なかなか上達せず、大会に出ることすらできないようです。このまま目の見えずに続けることに嫌気がさしたようで、本人から「部活動をやめたい。」と相談がありました。大会に出られない子どもがいる中で、それを理由にやめるといのもどうかと思います。さて、親としてどのような対応をすればよいでしょうか。</p>	<p>(私の経験はこうでした。／私ならこうするかな。)</p>

対象：幼児～中学生の保護者

テーマ：子どもに身につけて欲しい力

子どもにはいろいろな力を身につけて欲しいものです。その力とは子どもの実態からくるのか、親の考え方や価値観からくるのか、自分自身を振り返って、保護者同士で考えます。

時間	主な活動	留意点
2	【はじめに】 家庭や親によって、子育て方針は少しずつ異なるもの。まず、わが子にはどのような力を身につけたいですか。ただし、そこには理想と現実があるはず。わが子を思い浮かべながら、身につけたい力のランキングをしてみてください。	
5	【アイスブレイク(例)】 ① 3人グループ(G)をつくってもらおう。 ② 1本の紐の束を渡して、「左右に垂れた7本の紐から2本選び結んで下さい。そうすると3組結んで1本余ります。左右で余ったものを結びましょう。」と指示して、さあ結果は？	① ランダムが望ましい。 ② グループの相性がわかります。などの言葉で柔らかに促します。経験上、一本の輪になる確率は2～3割です。
10	【アクティビティ】 ① ワークシートを配布して、設定を読み上げます。「あなた」の下に名前を記入してもらい、自分の中のバースト3を選んでもらう。項目の横に1～3あるいはOを入れるよう指示する。下の欄にも自由に思いを記入してもらう。 ② Gごとに一覧を作成する。メンバー欄に名前を書き込んでもらい、数字を書き写す。全体を眺めてもらって、共通する部分、相違する部分に注目して意見交換するよう指示する。	① 親の気持ちと子どもの実態が掛け合わされた「力」が選ばれるはず。素直な気持ちで選んでもらえるよう言葉掛けをしましょう。 ② 背景にある子育ての思いを語り始めると深い学びや気づきが導かれます。(ただし、深まれば「守秘義務」を意識する必要があります。)
10	【ふりかえり】 ① グループの傾向をまとめ、それぞれの気づきにも触れながら、全体に向けて発表する。	① 1グループ2分程度で発表してもらいようにしましょう。
3	【まとめ】 今日は、子どもに身につけて欲しい力について考えてもらいました。兄弟姉妹でも違うでしょうし、理想と現実のギャップもあったり、親の価値観も影響したりします。普段あまり他の保護者の思いや考え方に触れない中で、今日はたくさん発見があったのではないのでしょうか。少し肩の力を抜いて、子どもを見つめてみましょう。	

ワークシート(小学生編)

子どもに身につけて欲しい力

私たち大人にとって、子どもたちは未来そのものです。未来を生きる子どもたちに身につけて欲しい力を考えてみましょう。下に8項目の力をあげています。「わが子」を思い浮かべながら、特に身につけて欲しい力<ベスト3>を個人的な思いで結構ですので選んでみて下さい。(できれば1～3の順位を、難しければ3つに○をつけて下さい。)

親としての価値観や信念で選ぶ方もいらしやるでしようし、中には「すでに身につけているので選ばない」や「もつと伸ばして欲しいから選ぶ」方もいらつしやるかも知れません。理由は様々でしようし、正解もありません。意見交換の場で背景も含めて補足をお願いします。

項目	あなた		メンバーの名前	
思いやりや優しさ				
競争心や負けん気				
集中して取り組む力				
協力する力や協調性				
地道な努力				
器用に生きる力				
あきらめない心				
善悪が判断できる力				

くその他、わが子がどんな風に育って欲しいか、漠然とでも結構ですので、思っていることがあればお書き下さい。 >

ワークシート(幼児編)

子どもに身につけて欲しい力

私たち大人にとって、子どもたちは未来そのものです。未来を生きる子どもたちに身につけて欲しい力を考えてみましょう。下に8項目の力をあげています。「わが子」を思い浮かべながら、特に身につけて欲しい力<ベスト3>を個人的な思いで結構ですので選んでみて下さい。(できれば1～3の順位を、難しければ3つに○をつけて下さい。)

親としての価値観や信念で選ぶ方もいらしやるでしようし、中には「すでに身につけているので選ばない」や「もつと伸ばして欲しいから選ぶ」方もいらつしやるかも知れません。理由は様々でしようし、正解もありません。意見交換の場で背景も含めて補足をお願いします。

項目	あなた		メンバーの名前	
思いやりや優しさ				
明るい笑顔やユーモア				
旺盛な好奇心				
協力する力や協調性				
健康と体力				
いろんな人と関わる力				
我慢できる力				
善悪がわかる力				

くその他、わが子がどんな風に育って欲しいか、漠然とでも結構ですので、思っていることがあればお書き下さい。 >

ワークシート(中学生編)

## 子どもに身につけて欲しい力

私たち大人にとっても、子どもたちは未来そのものです。未来を生きていく子どもたちに身につけて欲しい力を考えてみましょう。下に8項目の力をあげています。「わが子」を思い浮かべながら、特に身につけて欲しい力<ペスタ3>を個人的な思いで結構です。選んでみて下さい。(できれば1~3の順位を、難しければ3つに○をつけて下さい。)

親としての価値観や信念で選ぶ方もいらっしゃいますし、中には「すでに身につけているので選ばない」や「もっと伸ばして欲しいから選ぶ」方もいらっしゃるかも知れません。理由は様々でしょうし、正解もありません。意見交換の場で背景も含めて補足をお願いします。

項目	あなた		メンバーの名前	
思いやりや優しさ				
競争心や負けん気				
リーダーシップや人間的魅力				
協力する力や協調性				
社会に出るために必要な学力				
チャレンジする積極性				
目標に向けてコツコツ努力				
揺るがない正義感				

くその他、わが子がどんな風に育って欲しいか、漠然とでも結構ですので、思っていることがあればお書き下さい。>

対象：幼児～中学生の保護者

## テーマ：子育ての悩みランキング ～さて、みんなは？～

【ねらい】

子育てについては、気になることはあってもつい放っておきがちです。ここでは他の保護者がどの程度悩みながら子育てをしているのか、情報交換を目指します。

時間	主な活動	留意点
2	【はじめに】 家庭教育が大事なことは誰しもわかっています。しかし、子どもの状態を考えると不安になることも多々あります。子育てにおいて基本となるようなことを取り上げ、どれくらい気になっているのか、他の保護者と意見交換してみませんか。	
10	【アイスブレイク】 ① 4人グループ (G) に分かれてもらう。 ② 自分の名刺を3枚作ってもらう。子どもの情報(学年・クラス・名前)と自分の情報(名前・出身・ひとことPR)を記入する。Gの他の3人に渡し、自己紹介する。	① なるべく新しい組合せで。 ② 名刺作成に5分程度みます。自己紹介はひとり1分で、計4分程度を準備します。必ずみんながしゃべれるよう配慮します。
8	【アクティビティ】 ① ワークシートを配付。発達段階に応じた悩みを見て、どれくらい気になっているかA～Dの記号を書き込んでもらう。最下段には、今気になっていることを自由に書いてもらう。 ② Gのランキングの一覧表を全員で作る。みんなが発言できるように工夫する。例えば、「悩みの深い順に2分ずつ発表して、交代してみよう」など声を掛ける。	① 「あなた」の下に本人の名前を書いてもらう。A～Dの記入が済んだら、その他の気になる点や解決法を書いてもらう。 ② 日常の振り返りや意見交流が大切です。話しやすい雰囲気を作っていくことが大切です。「聴く・頷く」ように促しましょう。
8	【ふりかえり】 ① グループの傾向をまとめ、それぞれの気づきにも触れながら、全体に向けて発表する。	① 1グループ2分程度で発表してもらうようにしましょう。
2	【まとめ】 今日は、普段の子育ての悩みの度合いをみなさんと共有してもらいました。お子さんの顔を思い浮かべながら話したり、聞いたりしていたのではないのでしょうか。また、話を聞いてもらうことがストレス解消につながることも実感できたのではないのでしょうか。これからも保護者の輪・和を大切にしましょう。	

ワークシート(小学校下学年編)

子育ての悩みランキング ～さて、みんなは？～

子育ては日常です。気になることがあっても忙しさにかまけてじっくり考える心の余裕がありません。そこで、今日は子育てについて、気になることを保護者同士で出し合ってみましょう。ありがちな悩みを書き出してみます。これらのことは、みなさんにとってもれくらしい気になっているでしょうか。A～Dの4段階からもうっとも気持ちに近いものを選んで記入して下さい。

子育てについて気になること	あなた		メンバーの名前	
学校での勉強についていけているだろうか(理解度や態度は平均以上だろうか)				
学校でいじめやからかいにあっていないだろうか(クラスになじめているだろうか)				
生活リズム(就寝や起床、昼寝、食事、お風呂、トイレ、など)				
家での過ごし方はこれでもいいだろうか(テレビやゲーム等メディアへの接触時間など)				

とても気になっている(気になっていた)	A
気になっている(気になっていた)	B
気にならない(心配していない)	C
大事なことは思わない	D

くその他に、気になっていることがありますか。また上記のことでもうまく乗り切れたことがあれば記入して下さい。>

ワークシート(幼児編)

子育ての悩みランキング ～さて、みんなは？～

子育ては日常です。気になることがあっても忙しさにかまけてじっくり考える心の余裕がありません。そこで、今日は子育てについて、気になることを保護者同士で出し合ってみましょう。ありがちな悩みを書き出してみます。これらのことは、みなさんにとってもれくらしい気になっているでしょうか。A～Dの4段階からもうっとも気持ちに近いものを選んで記入して下さい。

子育てについて気になること	あなた		メンバーの名前	
公共の場でのお行儀(じっとしていられない、おしゃべり、だたをこねる、など)				
食事の作法・マナー(箸やスプーンの使い方、集中できない、こぼす、など)				
生活リズム(就寝や起床、昼寝、食事、お風呂、トイレ、など)				
友だち関係(ケンカやトラブル、集団になじめない、仲良しがいいない、など)				

とても気になっている(気になっていた)	A
気になっている(気になっていた)	B
気にならない(いつのまにかできていた)	C
大事なことは思わない	D

くその他に、気になっていることがありますか。また上記のことでもうまく乗り切れたことがあれば記入して下さい。>

ワークシート(中学生編)

子育ての悩みランキング ~さて、みんなは？~

子育ては日常です。気になることがあっても忙しさにまかせてじっくり考える心の余裕がありません。そこで、今日は子育てについて、気になることを保護者同士で出し合ってみましょう。あまりがちな悩みを書き出してみます。これらのことは、みなさんにとってもれくらしい気になっているでしょうか。A~Dの4段階からもっとも気持ちに近いものを選んで記入して下さい。

子育てについて気になること	あなた		メンバーの名前	
子どもの気持ちを理解できているだろうか(親子の信頼関係が十分だろうか)				
学校に行きたくなさそうである(勉強、部活動、友だち関係は大丈夫だろうか)				
夜更かしするようになり朝食抜きで登校することが増えてきた				
スマホを持たせただけがよかっただろうか(持たせていないが辛い思いをしていないだろうか)				

とても気になっている(気になっていた)	A
気になっている(気になっていた)	B
気にならない(心配していない)	C
大事なことは思わない	D

＜その他に、気になっていることがありますか。また上記のことでもうまく乗り切れたことがあれば記入して下さい。＞

ワークシート(小学生編)

子育ての悩みランキング ~さて、みんなは？~

子育ては日常です。気になることがあっても忙しさにまかせてじっくり考える心の余裕がありません。そこで、今日は子育てについて、気になることを保護者同士で出し合ってみましょう。あまりがちな悩みを書き出してみます。これらのことは、みなさんにとってもれくらしい気になっているでしょうか。A~Dの4段階からもっとも気持ちに近いものを選んで記入して下さい。

子育てについて気になること	あなた		メンバーの名前	
学習塾に通わせ方がよいのだろうか(通わせているがそれよいのだろうか)				
友だち関係は問題ないだろうか(学校の話をだんだんしなくなった)				
家族と一緒に食事をする回数が減ってきた(家族団らんの時間が減ってきた)				
家での過ごし方はこれでいいだろうか(テレビやゲーム等メディアへの接触時間など)				

とても気になっている(気になっていた)	A
気になっている(気になっていた)	B
気にならない(心配していない)	C
大事なことは思わない	D

＜その他に、気になっていることがありますか。また上記のことでもうまく乗り切れたことがあれば記入して下さい。＞



対象：乳幼児～中学生の保護

テーマ：親の振る舞いについて考えてみましょう

【ねらい】  
世の中の価値観が多様化して、どこまでが常識の範囲内なのか、迷惑と感じさせてしま  
うのか、その見えづらくなった基準についてみんなで考えてみます。

時間	主な活動	留意点
2	【はじめに】 「親としての常識」にも多様化の波が押し寄せて、どこまでが許されて、どこからが見過ごされないので、明確な区別がつかなくなってきた。「子どもにとって望ましいことか？」や「他人に迷惑ではないか？」などが判断基準になっていもいるようです。保護者の具体的な振る舞いを手がかりに考えてみましょう。	
5	【アイスブレイク（例）】 ① 一重円に並んでもらう。 ② ボールをもった人が、条件を設定（例えば、「赤いもの」）して、「トマト」といって次の人にボールを渡す。それを繰り返す。1周したら、次の条件で始める。	① 何もみだすに。 ② 簡単なゲームであるが、結構緊張する。出てこなくて、ミスしても笑い飛ばすような雰囲気づくりを心がける。
8	【アクティビティ】 ① 一重円を利用して4人グループ（G）に分かれる。自己紹介の後にワークシートを配布する。シートを読み上げて、個人作業に入る。	① 「あなた」の下に本人の名前を書いてもらう。A～Dの記入が済んだら自由記述欄に進むよう指示する。
10	② Gのランキングの一覧表をみんなで作る。なぜそう考えたのか、意見の違いや少数意見に配慮しながら進行する。合意形成は次段階となる。	② 普段の振る舞いの振り返りや意見交流が大切である。話しやすい環境づくりに配慮する。
5	③ Gの判定を確認し、シートに書き込む。	③ ②の議論をまとめる。
5	④ ホワイトボードに全Gの結果を書き込む。	④ 記入枠を準備しておく。
5	⑤ 代表的なところを選定し、発表する。	⑤ 時間を見ながら判断する。
	【ふりかえり】 今日のワークショップで感じたこと・気づいたことをGで発表し、共有する。	素直な気づきを話してもらうよう、声かけをする。
	【まとめ】 今日は、「親の振る舞い」について考えていただきました。社会で子どもを育てる際に、保護者が共通のルールやマナーに心がけることは重要です。人の思いに耳を傾けつつ、相互に理解を深めることは、信頼関係を築く上でも大切です。対立ではなく、共感を作り上げるためのコミュニケーションの場を大切にしましょう。	

ワークシート(乳幼児期)

「親の振る舞いについて考えてみましょう」

「子育てに優しい社会」が目指されながら、一方で「子育てに厳しい目が向けられる社会」でもあります。「親としての常識」にも多様化の波が押し寄せて、どこまでが許されて、どこからが見過ごされないので、明確な区別がつかなくなってきたのも事実です。「子どもにとって望ましいことか？」や「他人に迷惑ではないか？」などが判断基準になっているようですが、その基準も親の考え方によってばらつきが見られます。さて、下記の親の振る舞いについて一般論で考えて、意見交換をしてみましょう。  
まずはひとりでA B C Dのランク付けをして、その後に意見交換をして下さい。状況によって判断が異なると考えられますので、十分話をして下さい。最後には、ごく一般的にはどう見られてしまうのか、グループで判定して下さい。

親の振る舞い	あなた	氏	名	グループの判定は
定時に仕事は終わったが、買い物してから預かりの迎えに行く				
下の子どもが熱を出したので、上の子どもを友だちに預かってもらう				
20時以降に子ども（幼児）を連れてカラオケボックスにいる				
保育参観中に保護者同士が教室の外でおしゃべりしている				
ベビーカーをエスカレーターに乗せて階を移動する				
子どもの習い事で、友達紹介特典があるので勧誘する				
遊びにきている子どもの友だちにわが子と同じ「おやつ」を与える				
比較的人の少ないフードコートで子どもを自由に遊ばせている				
スマホ画面（子どもの怖がる画像）を見せてしつけをしている				
幼児だけで留守番をさせて近所のスーパーで買い物する				

<あなたの「迷惑をかけない」の基準は何ですか？>

◆判断の目安

A	非常識と感じる人が大半ではないか
B	非常識と感じる人もいるのではないか
C	他人の迷惑でなければ大丈夫ではないか
D	常識の範囲内ではないか

ワークシート(児童期)

「親の振る舞いについて考えてみましょう」

「子育てに優しい社会」が目指されながら、一方で「子育てに厳しい目が向けられる社会」でもあります。「親としての常識」にも多様化の波が押し寄せ、どこまでが許されて、どこからが見過ごされないのか、明確な区別がつかなくなってきているのも事実です。「子どもにとって望ましいことか？」や「他人に迷惑ではないか？」などが判断基準になっているようですが、その基準も親の考え方によってばらつきが見られます。さて、下記の親の振る舞いについて一般論で考えて、意見交換をしてみましょう。  
 まずはひとりでA B C Dのランク付けをして、その後に意見交換をして下さい。状況によって判断が異なると考えられますので、十分話して下さい。最後には、ごく一般的にはどう見られてしまうのか、グループで判定して下さい。

親の振る舞い	あなた	氏	名	グループの判定は
スポ少の送り迎えをした時にはガソリン代(頭割り)を請求する				
子どものおしゃれのために髪を少し明るく染める				
21時に降に子ども(児童)を連れて居酒屋にいる				
授業参観中に保護者同士が教室の外でおしゃべりしている				
お古のスマホ(Wi-Fi接続可)を子ども(児童)に与える				
仕事で帰りが遅いので、小遣いを与えて夕食をさせる				
役が回ってくるのでPTAの活動には参加しない				
休日にはよく大型商業施設で家族がそれぞれに過ごしている				
子ども(児童)の宿題や勉強の時は横で見てあげている				
平日の夕方は稽古事や学習塾を入れるようにしている				

<あなたの「迷惑をかけない」の基準は何ですか?>

◆判断の目安

A	非常識と感じる人が大半ではないか
B	非常識と感じる人もいるのではないか
C	他人の迷惑でなければ大丈夫ではないか
D	常識の範囲内ではないか

対象：小学生～中学生の保護者

テーマ：本当に「みんな」なの？ ～わが子からのプレッシャー～

【ねらい】

子どもの側から発信される情報は多分に「子どもの都合」が含まれています。実際の場面で思い浮かべながら、子どもの言葉と親子のコミュニケーションについて考える。

時間	主な活動	留意点
2	【はじめに】 ある日、子どもから「みんな～なんだよ」と言われて、要求や反論をされた経験はありませんか。その時に、どのように感じ、対応したでしょうか。子どもにありがちな「みんな～」はコミュニケーションのチャンスとも考えられます。みなさんの経験を話し合い、共有しましょう。	
8	【アイスブレイク(例)】 ① 2人組(ペア)を作り、簡単な自己紹介をする。 ② 最初に5秒間見つめ合う。小休憩の後、10秒間見つめ合う。最後に、20秒間見つめ合う。そして感想を交換する。	① よく知らない人同士が望ましい。 ② 座席は90度の角度くらいが望ましい。休憩の際には目は合わせないようにする。
5	【アクティビティ】 ① 「みんな～を持ってらんだよ」といって、「おねだり」や「強い要求」をされたエピソードを記入し、その時の親としての気持ちや対応も記入する。(場合によっては、「みんな～をやつてるよ」も一緒に記入する。)	① 思い浮かばなくて困っていても、その時は、もう少し例を聴やすが、少しグループで話をしたらもうと案外出てきたりする。
15	② 記入内容をグループ(G)で共有する。相互に質問し合って、深めることが望ましい。	② しっかり話してもらいたいが、発言が偏らないように声を掛ける。
5	③ 子どもの言葉にどのように耳を傾け、対応したらよいかG内で相談して、それぞれ納得したものを一番下のスペースに記入する。	③ 気づきは別々でもよい。
5	④ 全体発表(2～3Gが代表して。)	
8	【ふりかえり】 今日のワークショップで感じたこと、気づいたことをGにて共有する。	グループ内、全体発表、どちらの気づきでもよい。
2	【まとめ】 今日は、子どもの「みんな～なんだ」という語のかけについて考えてもらいました。保護者としては、つい子どもに辛い思いや恥ずかしい思いをさせてはいけない、ど思いがちです。しかし、学校での客観的な状況は把握しておいた方がよさそうですね。保護者同士の情報共有も、時として必要なことをご理解いただけたのではないのでしょうか。	

## 本当に「みんな」なの？

みなさんは、子どもから「みんな～を持ってるんだよ」や「みんな～やってるよ」と言われたことはありますか。ある時にはものを買って欲しいという「おねだり」や「強い要求」だったり、ある時には「眉をひそめるようなこと」を押し通そうとする方便だったり、親として困った経験はないでしょうか。

まずは、このような場面での親子のやりとりを思い出してみよう。子どもに根負けした場面もあるでしょうし、子どもとしっかり話せて理解してもらえただこともあるでしょう。みなさんの体験を是非共有しましょう。

### ① 「みんな～を持ってるんだよ」という場合はありましたか？

いつ頃、どんな状況で、何を欲しがりましたか？	その言葉をどのように受け止めましたか？	その対応に子どもはどう反応しましたか？

(例) 小1年の時、「みんながチャレンジ1年生やってるんだよ。僕もやりたいよ。」と言われた。

### ② 「みんな～やってるよ」という場合はありましたか？

いつ頃、どんな状況で、通そうとしましたか？	その言葉をどのように受け止めましたか？	その対応に子どもはどう反応しましたか？

(例) 中1の夏、「みんなスカート短くしてるよ。その方が可愛いもん。」と言われた。

### ③ 「子どもの言葉」にどのように耳を傾け、対応したらいいでしょうか

--

## まとめ

この参加型学習は、ある意味、家庭教育の「不易」を追求しているという側面がある。家庭教育の基本的な知識や最新の知識を身に付けることよりは、保護者として直面する課題意識や経験を持ち寄ることによって「家庭教育に必要な何か」にそれぞれが気づくことを重視している。保護者同士で語り合うことで気持ちが楽になったり、他の保護者も同じ悩みを抱えていることを知って安心したり、子育てに向き合う「姿勢」に変化をもたらそうとしている。このような保護者同士の関係づくりこそが、時代を超えても変わることはない、人間が課題を乗り越えていく際の知恵なのではないだろうか。正解のない世界で思い悩む保護者は漠然と「親としての至らなさ」に苛まれており、うまくいっていないところを指摘されても落ち込むだけである。認められたり、褒められたり、共感してもらえたりする中で気持ちに余裕が生まれ、そこでやっと他者の言葉が気づきにつながっていく。このような手助けとして有効であると経験的に考えているのが、ここで取り上げている参加型学習の教材の真のねらいである。今後の研究課題は、参加者の感想等からその変容を質的、量的に把握することであり、継続して研究を進めていきたい。